

2022 年 2 月 24 日

2021 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科課題研究

青年期の男女へ向けた乳児虐待に関する
知識普及のための教育媒体の開発

Development and Evaluation of Educational Media
for Adolescents about Infant Abuse and Prevention

20MW001
天田明日香

要旨

I. 目的

本研究の目的は、青年期の男女に向けた乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)の発生要因や予防法に関する知識を得るための教育媒体を作成することである。

II. 方法

本研究は、青年期の男女へ向けた SBS の発生要因や予防法に関する知識を普及する教育媒体(動画)を作成する開発研究である。試作版教育媒体を作成するにあたり、SBS に関連する先行研究について医中誌 Web、及び PubMed で検索し入手した。さらに、既存の動画やリーフレットを Web 上で入手した。これらの先行研究、既存の動画やリーフレットから、SBS が疑われる件数、要因、影響に関する情報を抽出し、試作版教育媒体(約 6 分間)を作成した。対象は 18~24 歳の男女とし、試作版教育媒体の視聴を依頼した。試作版教育媒体は、対象から得た視聴前後の知識テスト(5 問、計 5 点)結果、及び満足度アンケートによって評価し、抽出された修正点に基づき修正版教育媒体を作成した。分析は、知識テストの得点差について、対応のある t 検定を行い、満足度アンケートの内容を記述的に分析した。本研究は、聖路加国際大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号:21-A069)。

III. 結果

機縁法にて 50 名にリクルートし、分析対象者は 45 名だった(有効回答率 90%)。対象の平均年齢は 21.7 歳(SD=2.1)、男性 20 名、女性 25 名で、約 7 割が学生だった。知識テストは、事前テスト平均 2.3 点(SD=1.0)、事後テスト平均 4.2 点(SD=0.9)で、試作版動画視聴後に有意に上昇した($t=10.3$, $p<0.001$)。さらに満足度アンケートによると、教育媒体の見やすさと動画のスピードに対して肯定的な評価が 9 割以上と多数だった。自由記載では、知識のない人でもわかりやすい内容だった、もっとこの情報が広がってほしいといった肯定的意見があった。修正すべき点として、文章量や改行位置、文字の大きさや太さ等デザインや、教育媒体内での表現の違いに関する点等が抽出された。抽出された修正点を反映し、修正版教育媒体を作成した。

IV. 結論

青年期の男女に対し、SBS の知識を普及する教育媒体を開発し、受講後の知識テスト得点は上昇したことから、SBS に関する知識を得るための教育媒体としての有用性が示された。さらに、デザインや表現に関する修正点を反映したことから、より実用性をのぞめるものになったと考える。今後は、開発した教育媒体の普及を実践していく必要がある。